

## 編 集 後 記

新型コロナウイルスのパンデミックの解決が見えぬまま、今年も終わろうとしています。国内の新規感染者数はここしばらく抑えられているものの、南アフリカ発の新しい変異株の発生が、先週末に伝えられました。新しいオミクロン株の詳細は不明ですが、先がまた見通しにくくなったような心持ちがしています。

私の編集委員としての役割も二期目となりました。副委員長立場から、若手の皆様に質問があります。それは、「文章の書き方を勉強したことはありますか?」という問いです。非常に失礼な問いかもしれませんが、あえて申し上げます。少しの工夫で、文章は驚くほど洗練されます。一文で伝えるのは原則一つにする、主語や目的語を明確にするなどは、代表的なポイントです。また、修飾語の位置に気をつけるというのは案外盲点です。修飾語は被修飾語の直前におくように心がけると、わかりやすく、かつ勘違いされにくい文章になります。

例文を挙げてみましょう。

例文：素早く長い腰椎穿刺の針を刺した

→ (改善後) 腰椎穿刺の長い針を素早く刺した

症例報告や学会抄録を拝見していても、よくわかんないなあと思うことが時々あります。上記3つを守るだけでも、読み手に優しい文章になります。日頃あまり気をつけていないことがありましたら、ぜひ取り入れてみてください。またもし時間があれば、日本語の書き方についての本を一冊読むこともお勧めします。わかりやすい文章は、誤解を生まないメール、採択される研究費申請書、学会賞にノミネートされる抄録に、確実につながります。勉強に時間を少しかけても、十分なおつりが来ます。研究費申請や論文執筆が多いので、理系の研究者が書く文章量は、文系より実は多いそうですよ。(と偉そうなことを書きつつ、私の文章はわかりやすいだろうかと、ドキドキしております)

さて、今号も多くの興味深い症例報告を皆様にお届けいたします。年末のお忙しい中と思いますが、ぜひお読みください。

(三澤 園子)

葛原茂樹先生が、2021年11月28日にご逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。巻頭論文の紀伊 ALS は、先生が、私たちに残された大きな課題です。先生のご意志を汲み今後とも尽力いたします。先生の本学会への多大なご貢献、ご功績を顧み、謹んで哀悼の意を表します。

(編集委員長記)

### 〈 編 集 委 員 〉

編集委員長	小野寺 理	編集副委員長	三澤 園子
編集幹事	石浦 浩之	漆谷 真	杉江 和馬
編集委員	今井 富裕	木下 真幸子	古賀 政利
下畑 享良	鈴木 匡子	辻野 彰	坪井 義夫
			櫻井 圭太
			柴田 護
			中嶋 秀人
			新野 正明

「臨床神経学」	第61巻 第12号	2021年12月1日発行	
編 集 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一九ビル		一般社団法人日本神経学会
発 行 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一九ビル		戸 田 達 史
印 刷 所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一九ビル  
日 本 神 経 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>